扶助者聖母の祝日　九日間の徳の花（４日目）

おはようございます。今日の徳の花は「探したい」　友達の「良いところ」を。

「良いとこ探し」と言えばアメリカの小説家「エレナ・ホグマン・ポーター」の「少女パレアナ」。

パレアナの名は「ポリアンナ」とも翻訳されていますが、両親を早くに亡くし孤児となったパレアナが牧師であった父親の遺言である「良かった探し」を実践し、貧しさや不幸に負けずに明るく健気に生きていくお話です。前向きな少女の姿はかたくなな叔母の心をときほぐし、周囲の人々を明るくし、なんと町の雰囲気まで変えてしまいます。人々は下半身不随になってもなお、喜びを探し出すパレアナの中に強靭な意志の力と生命力を感じ取っていくのです。

日本でも１９８６年に「世界名作劇場」で「愛少女ポリアンナ」と題してアニメ化されています。

１９１３年、今から百年近く前に書かれたこの作品はアメリカの多くの若者に支持され、一大ブームとなりました。心理学用語の「前向きな思考は良い影響をもたらす」という意味で用いられる「ポリアンナ効果」や「ポリアンナ症候群」はこの主人公の名前に由来するのだそうです。いつの時代でも人間の心は複雑で、「人の心の在り方」を探求する作業は存在するのですね。

とかく人間は自己・他者問わず「嫌なところ」に心をとらわれてしまうものですが、「負」にばかり目を向けていると思いは内に籠るばかりで、物事の本質や解決策はなかなか見えてこないものです。「嫌」なもの、「ダメなもの」は自分にとって「嫌」だという、とても主観的な感情です。

さあ、見方を変えてみてください。ポリアンナに倣って「よいとこ探し」をしてみましょう。友達の良いところ、あなた自身の素晴らしいところを。ポリアンナのように赤羽の町の雰囲気は変えられなくても周りはきっと明るくなるはずです。

今日一日、周囲の「良いところ」をたくさん見つけたい。マリア様、一緒に探してください。

そして、今日も明日も晴れやかに過ごすことが出来ますように。